

第36回 人文機構シンポジウム

# 海外で日本を

KIZUNA 展からその意義を探る

# 展示すること

2019  
10.5<sup>土</sup>  
13:30~16:40

[会場]  
東京大学  
本郷地区キャンパス  
法文2号館2階一番大教室

[定員]  
200名 ※手話通訳あり

要事前  
申込み

[申込方法]  
以下の web サイト内の受付フォームにて  
お申し込みください。  
<https://www.nihu.jp/ja/event/symposium/36>  
定員に達した時点で締め切ります。



主催：人間文化研究機構  
協力：ウェールズ国立博物館  
後援：英国ウェールズ政府、  
外務省、文部科学省、  
国際交流基金



© National Museum Wales

人間文化研究機構(人文機構)では、国立歴史民俗博物館を中心とする研究組織により、10年ほど前から大規模な在外資料調査研究プロジェクトを推進し、新たな歴史資料の発掘とデータベース公開を基礎に、国内巡回展示やシンポジウム公開など様々な方法で成果を発信してきました。さらに、日本研究や日本文化理解を活性化させるために、海外の状況やニーズに応じた新たな日本文化発信の方法を模索する試みを実践しています。

本シンポジウムは、このような活動の一環として昨年の夏、イギリス・ウェールズで開催した国際連携展示「KIZUNA : Japan | Wales | Design」展(主催:ウェールズ国立博物館、国立歴史民俗博物館、文化庁)の実践例を中心に、博物館展示を通じた日本紹介の意義や課題について議論を深める機会とします。グローバル時代の新たな日本文化発信の展望について、国内の研究者や市民の皆さまと共有することを目的とします。



## プログラム

- 13:30 開会の辞 開会の挨拶：平川 南(人間文化研究機構 機構長)
- 13:35 趣旨説明 日高 薫(国立歴史民俗博物館 教授)
- 13:45 特別講演 デイビッド・アンダーソン(ウェールズ国立博物館 館長)  
**「イギリスにおける日本展示の実態と展望」**  
 ※逐次通訳付き
- 15:00 休憩(10分)
- 15:10 報告1 三木 美裕(国立歴史民俗博物館 客員教授)  
**「ウェールズ国立博物館、KIZUNA展開催までの道のり」**
- 15:35 報告2 荒川 正明(学習院大学 教授)  
**「日本のやきものを飾る  
 ー海外美術館における展示事情」**
- 16:00 休憩(10分)
- 16:10 質疑・総合討論 司会：大久保 純一(国立歴史民俗博物館 教授)
- 16:40 閉会の辞

## 特別講演講師の紹介



デイビッド・アンダーソン氏  
*David Anderson*

イギリスのヴィクトリア&アルバート美術館で博物館教育部門を長く率いた後、2010年にウェールズ国立博物館館長に就任。イギリス博物館協会会長(2015-2017年)。またイギリスの政府のアドバイザーとして、'Culture On-Line' や 'Creative Partnerships'、国立博物館の教育普及戦略等を含む幅広い文化行政施策に参画した。著書『ミュージアム国富論』は、専門書としては異例のベストセラーになった。

## アクセス



※当日は、赤門と正門以外からはご入場いただけません

お問い合わせ

第36回人文機構シンポジウム事務局

TEL: 03-5925-2840 E-mail: nihu-sympo36@adthree.net